

## 研究結果

本研究は、「古来から日韓海峡圏域における地域・民間レベルでの交流によって形成されてきた、この圏域に特有の庶民文化と民俗の共通性が存在するのではないか」という問題意識から始まったものである。この圏域に特有の地域文化と民俗、およびその類型を確認するため、正史や国レベルでの交流の公式記録・史料はもちろんのこと、特に民間レベルで伝承されてきた外史・物語・伝説・寓話に着目した。それらの関連資料・史料を収集するに当たり、フィールド・ワークを通じた資料収集も行った。その結果、以下のような研究成果をあげることができた。

第一に、正史などには記録されていない民間レベルでの交流が頻繁に行われてきたことが、伝説・寓話などの物語から確認できた。すなわち、古来から当圏域では、民間レベルでの衣・食・住文化の交流は自然に行われており、したがってその共通性が強く残っているのである(一例として、対馬の伝統的な石焼料理のように石を用いた料理作りは、韓国の南部地方や済州島では現在も強く残っている食習慣である)。

第二に、当圏域での民俗文化の共通性は、特に信仰や生活倫理に強く残っていることが確認できた。信仰の種類、形式、内容は多様であるが、特に天と海に関連した信仰において共通する部分が多いのである(一例として、韓国各地に残っている石積み信仰は、天との交通のための信仰的象徴物であるが、これが日本では対馬と北九州にしか見られないということ)。また倫理に関連するものとして、日本の対馬と北九州地域に特に親孝行に関する物語が多く残っていることが確認できた(日本の昔話には、一般的に親孝行に関する物語よりも神やカリスマ的存在に関する物語が多いが、この地域にのみ特に親孝行に関する物語が相当数残っている)。

第三に、対馬現地調査では、二つの重要な歴史的事実を確認することができた。一つは、『海東諸国記』の釜山「倭館」の地図にある永福寺が対馬と関連があるということ、もう一つは厳原の修善寺が古来百済の尼僧によって創建され、10代目までは尼寺だったということである。

以上のような本研究での成果を、先ず今年9月に「日本近代学研究」に研究論文として発表し、その後、『日韓海峡圏交流史(仮題)』というタイトルの著書を発行する予定である。

## 研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「物語からみた対馬の民俗文化」・南椿模・『日本近代学研究』29集・2010年9月30日、発表予定。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

『日韓海峡圏地域の交流史』・南椿模・大旺社・2011年、発刊予定。